

昔の昭和区周辺の地形



江戸後期名古屋城下地図（1800年前半）

時代の移り変わり地形

上の養老元年（717）の絵図では、熱田台地、御器所台地、笠寺台地などを除いてほとんどが海の中であったことがよくわかります。8世紀から12世紀にかけて海面の上昇が進み（「平安海進」といいます。）、特に関東平野や愛知県西部の海拔ゼロメートル地帯は完全に海となっていました。「津島」や「枇杷島」、「長島」などは今も地名が残っていますが、当時は本当に島だったようです。また、昭和47年まで昭和区の町名としてあった「島退（現在の、御器所1丁目、2丁目のあたり）」が「島木」として記されています。

それから約1,000年後の江戸時代の地図（左の図）では、海は後退し、濃尾平野が現れてきています。また、今の山崎川が「川名川」と記載されているほか、「御器所村」の文字の下には「広見池（現在の向陽高校のあたり）」が、「東寺町」の文字の上には「今池」が記載されています。「塩付街道」や「駿河街道（飯田街道）」も記載されています。

（尾張古地図は猿投神社図から作成。江戸後期図はNetwork2010から転載しました）

昭和区の埋蔵金さがし

歴史に埋もれた昭和区の宝

飯田街道・塩付街道

編集後記

昭和区内を斜めに通っている飯田街道、ほぼ中央部を南北に通る塩付街道。

まちを歩くとき、普段は気に留めないものも、見方を変えてみると、新たな発見があるかも知れません。そんなまちの隠れた魅力（＝埋蔵金）を再発見していただくという思いから、平成22年7月に約50人の方ご参加いただき、塩付街道・飯田街道のウォーキングイベント（まち歩き調査）を実施しました。このマップは、このイベントにおける調査やご意見をもとに、講師をお勤めいただいたネイチャークラブ東海の篠田陽作さんと作成したものです。また調査にあたっては、桜花学園高等学校の生徒及び昭和区案内人クラブの会員のみなさんに多大なご協力をいただきました。このマップを見て昭和区のまちの魅力を感じていただくとともに、散策にお役立ていただければ幸いです。

参考文献：昭和区誌、マップ「The SHOWA」第1巻 塩付街道・飯田街道、第8巻吹上・松栄
「古紙パルプを含む再生紙を使用しています。（発行：平成23年3月 昭和区役所まちづくり推進室）」



講座とまち歩きの様子



塩付街道の起点は時代とともに南下していった？

初期の塩付街道の起点は現在の南区の呼続公園の東にある富部神社の付近といわれていました。平安海進（8～12世紀）が収まるに従い、海岸線は徐々に後退しました。初めころの海岸線は笠寺台地（現在の笠寺観音の西あたり）の前浜のあたり（現在も前浜通と名称が残っています。）でしたが、海進の収束に伴い南下していきました。塩付街道で運ばれた塩は「前浜塩」といわれていましたが、これはこの地名に由来するものと思われます。現在の呼続公園の西には汐田、塩屋、千竈などの製塩にゆかりのと思われる地名が見られます。やがて江戸時代の文政年間（1818～1830）になると、瀬戸内海の製塩が中心となり、このあたりの製塩は激減し農業地へと変わっていったようです。

（右図の薄い青は縄文海進のころ。濃い青は江戸時代の海の様子。平安海進のころは、この中間くらい、岐阜くらいまで海だったようです。）



塩付街道・飯田街道の埋蔵金(魅力)探しマップ

塩付街道

昭和区のほぼ中央を南北に通っている道で、南は星崎付近から北は瀬戸街道につながる。街道の塩付という名は、星崎付近の塩田で取れた塩が、足助を経て信州方面に運ばれていたことに由来しています。塩は馬によって運ばれましたので、道中の安全を祈って、所々に馬頭観音や地藏菩薩が安置されていて、その一部が残っています。

① 長修殿清峯院



浄土宗のお寺で、白川町から疎開してきます。本尊は阿弥陀立像です。本尊の横に寛文王山日秦寺にあった弘法大師像があり、寺の前には、9体の地藏菩薩と1体の不動明王が鎮座しています。

② 名木ウバメガシ



石黒郷に向かい合っている2本の「昭和区の名木」。その昔、塩付街道を往來する人々や塩の運搬人の道しるべとなり、また、憩いの場所となった由緒のある木です。

③ 石仏白山社



祭神は石仏村の氏神「菊理姫命(くくりひめのみこと)」です。明治の神仏分離により善昌寺から分れました。この付近にあったとされる古観音庵寺跡出土の「布目の鬼瓦」(奈良時代)を所蔵しています。

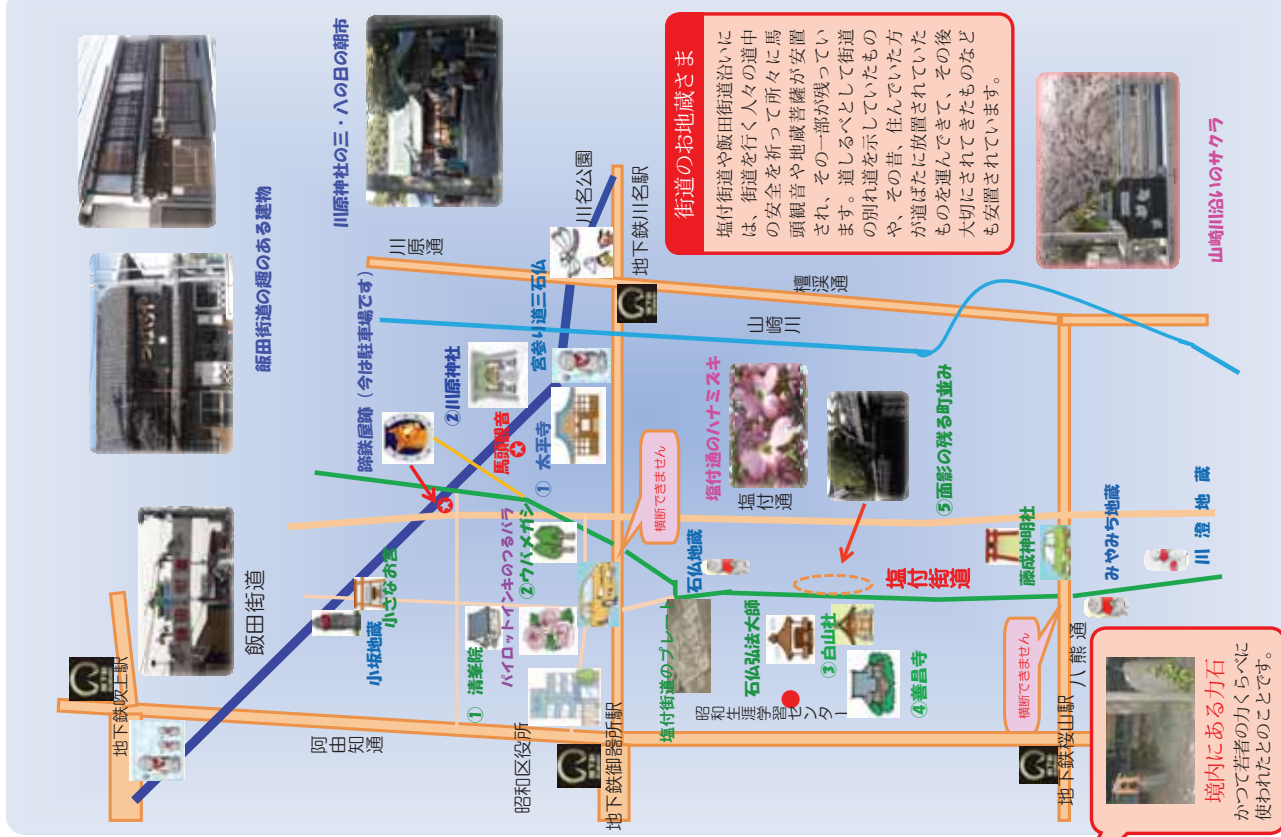
④ 善昌寺



曹洞宗のお寺で、本尊は釈迦如来です。服部総一郎善昌の子が幼少より出家して鑑宗といひ慶長13年(1608)にお堂を建立し、父の名を寺号と名づけています。観音堂には秘仏の石像、千手観音、円空作の薬師如来像があり、また観音堂の前には「石仏」の地名のもとにもなった地藏尊があります。服部総一郎善昌は、織田家の家臣佐久間家と姻戚関係にあった地元の豪族であったと伝えられています。また、明治5年から10年までの間、区内最初の学校である松栄学校(現在の広路小学校の前身)がここに置かれました。

飯田街道(駿河街道)

名古屋と信州飯田を結んでいる街道で、昭和区は地下鉄吹上駅付近から八事にかけて、区内をほぼ斜めに通っている道です。この街道は、東海道のように関所のわずらわしさがなかったので、信州との交易が盛んに行われ、信州からはタバコや木地桶などが、名古屋からは干魚や瀬戸物などが運ばれました。また、明治末期には鉄道馬車が激か、八事山に行くのに盛んに利用されました。



① 太平寺



開山没天文2年(1533)建立の記録がある曹洞宗の古寺で、本尊は地蔵菩薩様です。小牧・長久手の戦いで消失し、明治になって再建されました。現在の本堂は、昭和6年のものです。
※釈迦牟尼佛

② 川原神社



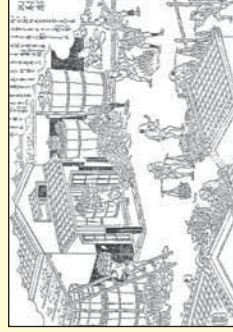
祭神は日神(ひのかみ)・埴山姫命(はにやまひめのみこと)・岡象女命(みつのはめのみこと)と)で、延喜5年(905)の延喜式神名帳に社名が記載されている古いお宮です。三と八の日の日には朝市があります。

⑤ 面影の残る町並み

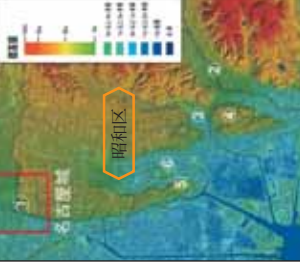


石仏白山社の近くの塩付街道沿いには、昔の面影を残す並みや建物が残っています。かつて馬の背に塩を積んで多くの人が行き来していたことから、お地藏さんや鳥頭観音などともところどころに残っています。

御器所さしみ



御器所台地には大根がよく育ち、その大根と塩を使って沢庵漬けが名産となりました。尾張藩御用商人の亀井家の(屋号「萬屋」)が商いの沢庵漬けを作り全国的な産地となりました。あまりに美味しいので「御器所のさしみ」と呼ばれていたそうです。現在でも御器所には漬物屋さんがあります。



「前浜瓶が作られました。⑤が熱田神宮です。この先が宮の渡りで海だったところは昭和区の鶴舞あたりまでは海だった様子かわかかります。⑥は精進川で現在の新堀川です。